

細菌性髄膜炎ワクチンの定期予防接種化を求める意見書

日本国内で年間1,000人近くの子どもが発症していると推定される細菌性髄膜炎は、死亡率が約5%、後遺症が20数%も残る重篤な感染症ですが、病気の原因とされるヘモフィルスインフルエンザ菌b型（以下「ヒブ」という。）及び肺炎球菌に対するワクチンが既に開発されています。さらに、このワクチンを定期予防接種化した国々では発症率が大幅に減少していることから、我が国においても同様にワクチンを定期的に予防接種することにより細菌性髄膜炎から子どもたちを守ることができます。

しかし、我が国においては、ヒブに対するワクチンが昨年承認されたばかりであり、まだ任意接種の段階であるため、予防接種を受ける場合の保護者の費用負担が大きなものとなっています。

また、肺炎球菌に対するワクチンについては、乳幼児に対するワクチン接種がいまだ承認されていない状況です。

よって、国におかれては、下記の事項について実施するよう強く要請します。

記

- 1 ヒブワクチンの有効性、安全性を評価した上で、速やかに定期予防接種化すること。
- 2 ヒブワクチンの国内供給体制を確保すること。
- 3 乳幼児に対する肺炎球菌ワクチンの接種を早急に承認すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成21年6月29日

上田市議会議長 丸 山 正 明